



JALT JSL SIG NEWSLETTER

Issue #17 (2) [serial 41] Fall 2020(秋号)

JSL 会員の皆様

小春日和が続く秋晴れの毎日ですが、コロナは相変わらず、流行しているようです。

今年の JALT2020 国際大会は、オンラインで開催することになったようです。

JSL では、土曜日 11 月 22 日の朝の 10 時 45 分から 12 時 15 分まで

“Reflecting on Their Own Experiences: JSL Teachers” というフォーラムを開催します。

皆様、是非ご参加ください。JSL 関係の発表は、3 頁にまとめてありますので、ご覧になって下さい。



19/20 JSL 代表
Megumi Kawate-Mierzejewska

This issue starts with SIG news business reports including Call for papers for JSL journal Volume 16, and 2021 JSL New Letters (NL). You can then find 2020 JSL officer reports and a feature article.

Yoshiko Ichimura introduced her article entitled “. Online Nihongo Salon, “and the last page shows SIG membership information.

We would like to express our appreciation to people who contributed their articles to this JSL Newsletter, and kindly supported our editorial team. The JSL SIG Newsletter editorial team
Megumi Kawate-Mierzejewska,
Yo Takahashi



IN THIS ISSUE

Greetings	1
SIG News	2
JAL 2020	3
Officer Reports	4-5
Feature Article	5-7
SIG Information	8

SIG News/Business

▶ Call for Papers :

JALT Journal of Japanese Language Education, Volume 16

▶▶ Japanese-as-a-second language (JSL) researchers, teachers and learners are invited to contribute articles, research reports, essays, or book reviews.

Deadline for submissions: **May 31, 2021.**

Please visit <<http://hosted.jalt.org/jsl/shuppan.htm>> for Submission Guidelines

Please submit the manuscript to us at JSL SIG (jaltjst@yahoo.co.jp).

2021年の秋に発行される予定の『JALT 日本語教育論集』の原稿を募集しております。興味のある方は、2021年5月31日までに上記のメールアドレスまで、原稿をお寄せください。尚ガイドラインは上記にある[http](http://hosted.jalt.org/jsl/shuppan.htm)にアクセスして下さい。原稿は編集できるようにMSワードで送って下さい。

JALT JSL SIG Newsletter (JSL SIG NL)

▶▶ You are all invited to contribute your research articles, teaching approaches, updated information, essays or book reviews in the area of Japanese language education to the next issue of JSL SIG NL. We accept articles related to JSL/JFL in either Japanese or English. For the next issue, submit your contribution by February 15, 2021, to naganomamo@yahoo.co.jp. Please email naganomamo@yahoo.co.jp for more information as well.

▶ JSL officers election for 2021

JSL officer election for 2021 was held electronically in November, 2020.

The result will be reported in the following issue of NL.

▶ Forthcoming Conference:

JALT 2020

The 46th JALT Annual International Conference 2020 will be an online event.

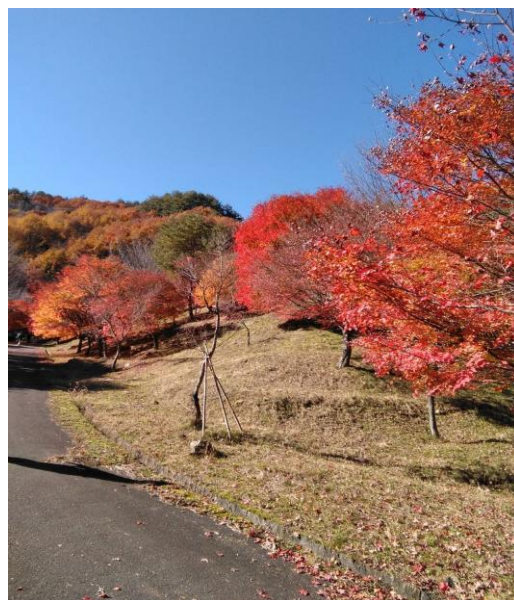
Please visit <https://jalt.org/ja/conference> for details.

JALT2020 年次国際大会はオンライン上で開催します。詳しくは以下のサイト <https://jalt.org/ja/conference/jalt2020> をご覧になって下さい。



▶ JSL- related presentation at JALT 2020

Please visit the following site for details. <https://jalt2020.eventzil.la/sessions/responsive>



▶ continue to the following page
次のページに続く

JALT 2020 JSL SIG-related presentations Preview

.....

JSL Forum#260

Reflecting on Their Own Experiences: JSL Teachers

Time: Sat, Nov 21, 10:45-12:15

Mayumi Shibakawa,
Maria del Vecchio,
Michiyo Matsuura
Azalia Zaharuddin

“In this forum, three presenters will share their findings on current college level Japanese as a Second Language (JSL) issues. The topics include: JSL teachers’ teaching techniques of using L1, the pros and cons of evaluating JSL student-teachers, and JSL learners’ motivation and identity issues. We will have discussion sessions after each presentation. Please come and join us to share your thoughts on current JSL issues!” cited in *JSL Sessions*.

Retrieved 11/17, 2020 from

<https://jalt2020.eventzil.la/sessions/responsive>

.....

JSL SIG AGM #826

Time: Sat, Nov 21st, 12:50 ~ 13:35

Coordinator

In this meeting, we will look back on our previous activities, discuss plans for future Japanese as a Second Language (JSL) SIG activities, publications.

➡ JSL officer election for 2021 was held electronically in the middle of November 2020.

JFL Teacher Education Through
Microteaching #333

Time: Sat, Nov 21st, 16:45 ~ 18:15

Midori Inaba

『日本語教師養成に関する大学の授業研究である。日本語教育を副専攻とする学部1年生を対象とし、日本語授業力の基礎を培うために日本語初級教科書の内容を教える模擬授業を行った。本研究では、模擬授業で学生が「学んだこと」、及び、「学べなかったこと」を考察し、高年次で行う日本語教育実習の課題等を明らかにする』。 cited in *JSL Sessions*.

Retrieved 11/17, 2020 from

<https://jalt2020.eventzil.la/sessions/responsive>

Learnability of Japanese Case Particle ‘Wo’
#340

Time: Sat, Nov 21st, 16:45 ~ 18:15

Anubhuti

“Is inter-language shaped by universal properties of language? If so, what is the role of the L1 or of input? This study explores these questions by looking at how learners of Japanese use case particle ‘wo’, which marks the patient of transitive verbs, through two surveys - one targeting Hindi speakers and a second targeting Persian speakers of beginner to upper intermediate levels.” cited in *JSL Sessions*.

Retrieved 11/17, 2020 from

<https://jalt2020.eventzil.la/sessions/responsive>



JSL SIG Officer-Reports 2020

1. Coordinator

Megumi Kawate-Mierzejewska

She joined the first EBM (Executive Business Meeting) in 2020, and arranged Mr. Peter Ross to join the 2nd EBM held in Tsukuba. Moreover, she worked with other officers to discuss JSL future directions, worked on JSL NL (News Letter), editing them, as well as collecting articles.

JSL コーディネーターの川手は EBM と呼ばれる JALT の役員からなる会議に出席し、JSLNL の役員であるピーターロス氏の EBM 出席の準備をしました。また、川手はその他の多くの雑用をこなしました。

2. Treasurer Maki Hirono

Temple University, Japan Campus

It has been 3 years since I started serving as JSL SIG treasurer. For this 2020-2021 fiscal year, our SIG finances have been stable and maintained well while the budget is tight. The annual internal examination for the previous financial year was successfully completed in April 2020, and the new fiscal year started with no revenue or expenses for a few months. In August 2020, we received annual grant from JCO, and a website hosting fee was deducted from the grant in the same month. The projected expenses this year is mainly for JALT2020 forum, which is going to be held very soon! I hope that many of you will join our forum. Thank you for your continued support to JSL SIG.

JSL SIG 会計担当となりまして早3年が経ちました。今年度 2020-2021 の財務状況は安定しており、管理体制も万全です。前年度の内部監査は 2020 年 4 月に無事完了し、新年度は収支に変動のない期間が数か月続きました。2020 年 8 月には JCO より年間助成金を受領し、ウェブサイト管理費がその中から支払われました。本年度見積もった経費は主に JALT2020 フォーラム用であり、開催日は目前に迫っています！当日は多くの皆様にご参加いただければと存じます。今後とも、JSL SIG をよろしくお願い申し上げます。

3. Program chair Mayumi Shibakawa

2020年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、多くの大学でオンライン授業の実施を余儀なくされるなど、これまでにない対応が必要とされた年でした。JSL の活動においても、SIG フォーラムがオンラインで開催されることとなりました。フォーラムでは登壇者の方々にご協力いただき、Zoom で発表を行っていただきます。今後も対面ではない形での学会活動が続くことが予想されますが、臨機応変に対応できるよう皆様のご協力を賜りながら、活動を続けていきたいと考えています。

4. Web. Master Shingo Moroyama

ホームページの維持管理を行いました。定期刊行しているニュースレターをPDF化してアップロードしました。また、今年度は日本語教育論集を発行する年度でもあったため、それもPDF化してアップロードしました。また、2021年度のホームページリニューアルに向けて素案作りを進めた一年となりました。見やすさと使いやすさ、管理のしやすさを念頭

にデザインしています。

5. Membership chair Fraser Smith

Frazer Smith worked as the membership chair for 2019/20 and was responsible for promoting membership throughout the year.

スミスは、会員担当責任者として毎月、会員期限の切れた会員に会員更新のお知らせを送りました。

6. Publication Chris Hennessy

7. *JALT Journal of Japanese Language Education*, which is published bi-annually.

『JALT 日本語教育論集』は2年に一回発行されます。

Call for papers:

JALT Journal of Japanese Language Education, Volume 16

Japanese-as-a-second language (JSL) researchers, teachers and learners are invited to contribute articles, research reports, essays, or book reviews.

Deadline for submissions:

May 31, 2021.

Please visit<

<http://hosted.jalt.org/jsl/shuppan.htm>>

for Submission Guidelines

Please submit the manuscript to us at JSL SIG (jaltjstl@yahoo.co.jp)

現在、来年の秋発行予定の『JALT 日本語教育論集 16号』の原稿を募集しております。締め切りは、2021年の5月31日です。なお、上記の出版の為のガイドラインにもアクセスして下さい。また、原稿は編集できるように、ワードで送って下さい。皆様からの投稿を、お待ちしております

おります。

8. Publicity co-chairs Shingo Moriyama+ Keiko Sakatani

They set up a JSL SIG table at JALT 2019, and met people to encourage them to join JSL as well as preparing documents for the conference

森山と坂谷は、2020年度の始まりの秋のJALT国際大会で、JSLの宣伝用テーブルを整え、そこで、JSLに興味を持ってくれる人々に合いJSLを紹介した。

9. News Letter (NL) team

川手は、編集、写真撮影、記事集めに携わり、廣野は配信、高橋はレイアウトに気を配りました。ロスは、アドバイス役でした。

.....

Feature Article

.....

Online Nihongo Salon

テンプレ大学ジャパンキャンパスと昭和女子大学の試み

市村佳子
Yoshiko Ichimura

テンプレ大学ジャパンキャンパス
Temple University, Japan Campus

1. はじめに

2019年8月にテンプレ大学ジャパンキャンパスが昭和女子大学の敷地内に校舎移転し、両校の学生間で気軽に会話を楽しむ場として SWU Student Ambassador's Club 主催の Nihongo

Salon (日本語で会話)、TUJ Student Emissaries Club と学生サービス部共催の Eigo Salon (英語で会話) がスタートした。両校の学生間で新たなつながりが生まれ、広がっていくことが期待されている。

教室外での学生の活動については島崎 (2016) で日本語・日本文化のクラブに入ったことで、自分と似ている人とのつながりを築き、日本語の学習方法や使い方を学んだのみならず人間関係も深めていった学習者の経験が述べられている。またトムソン (2016) は信頼関係を前提とした人と人、コミュニティとコミュニティのつながりの重要性を説いている。

2. Online Nihongo Salon の実施

2020 年夏学期には初めてオンライン同イベントを開催することとなり、全 3 回行われた。オンライン会議システム Zoom を使用し、両校の学生を 20 人ずつ募集した。話題は自由だが、例として、趣味、今履修しているコース、外国語の勉強方法等が事前に参加者に伝えられた。Zoom の breakout room 機能を使い、日本人学生と外国人学生がバランスよく入るように 4-5 人ずつに組み分けし、学生同士日本語で約 45 分会話をした。外国人学生の日本語レベルはグループ内で必ずしも同じではない。

第一回目は筆者が入ったグループは外国人学生と日本人学生 2 人ずつで、日本語学習者のレベルは二人とも上級であった。はじめに一人ずつ自己紹介し、筆者は聞き役に徹するので学生中心で話すように促した。全員語学学習に興味があったので、お互いに外国語の勉強方法や将来の夢、目標について話し、それに対し質問しながら会話が続けていた。自宅から参加していたため、自分の本や漫画を見せながら 'Show & Tell' がで

きていた。また英語教師のアルバイトをしていた学生が、英語の勉強についてのアドバイスも伝え、お互いに実り多い時間となったようだ。zoom で声被りになると、「あ、すみません」「いえいえ、A さん、どうぞ」というように、声を掛け合いながら、沈黙することなくスムーズに話が進んでいた。授業でも zoom を使っていたことや Online Eigo Salon に参加したことがある学生がいたことで、zoom を使用したグループ会話の進め方に慣れていくようであった。笑い声と笑顔が絶えず、終始和やかな雰囲気であった。

第二回目と第三回目は、筆者は会話のグループには加わらず、後日参加した外国人学生 3 名 (S、N、J) に、インタビューを行った。全員「とても楽しかった」、「また行きたい」と回答し、高評価だった。話題は好きな食べ物、音楽、映画、学校のこと、外国に行ったことがあるかについてだった。S と N は、Eigo Salon にも参加しており、今後も両方参加したいとのことだった。S は Nihongo Salon のほうが日本語で話すので少し難しかった、と述べているが、Eigo Salon に参加したことで、日本人と話す時の緊張感や不安感が軽減されたとのことだ。また継続して来ている参加者と SNS を交換し、イベント終了後も交流が続いている。ただし、J は「楽しかったけど、少し難しかった。ほかの学生の日本語レベルが高かったです。」と述べている。これは、グループを日本語のレベルに関係なく分けているため、思うように話せなかったり、話が難しいと感じたりしたところがあったようだ。それでも楽しかった、以前よりも流暢に話せるようになったと感じていると答えている。また、N は昭和女子大学の学生は英語を使いたが

っているから、また自分が日本語で言えないことがあるから時々英語で話したと述べた。先学期までは一度も参加したことはなかったが、とても面白かったのでこれから Nihongo Salon も Eigo Salon も全部参加すると意欲を見せていた。N は日本語の授業での学習者同士の会話練習は消極的であったが、教室から離れてイベントで日本人と話すという環境で日本語でコミュニケーションすることの楽しさを発見し、学習の動機付けにもなったようだ。今回インタビューを行った学生全員から高い評価が聞かれた。「日本語／英語が上手になりたい」「TJ / SWU の学生と交流がしたい」という共通の思いを持つ学生同士が集まり、気持ちを伝えあい、交流が生まれていた。ここから新たなコミュニティが生まれ、発展させていけることが期待される

3. まとめ

初めて zoom で実施した Online Nihongo Salon だが、対面式の時に比べ参加者が増え、今後もこの形式は継続していくこととなった。参加者が増えた理由としては、移動時間がかからないことや、校門で ID チェックをして入るといった心理的バリアが無くなったこと挙げられる。またグループに分かれたときに完全に独立して他のグループの声が入ることがないので、聞き取りやすく、話しやすいということも考えられる。第三回目には、学生が大学の休暇中も Web 上で交流できるよう Language exchange discord link を作成し、紹介していた。これはイベントに参加できなかった者でも書き込みができるため、さらなる交流の広がりが期待される。継続して参加している学生が多いことから、今後も両

校同士、また同じ学校からの参加者同士のつながりを築いていけるのではないだろうか。各回の参加者同士が継続的にどう交流していけるかが今後の課題となるだろう。

参考文献

島崎薫 (2016) 「学生と学生をつなぐ」 トムソン木下千尋 (編) 『人とつながり、世界とつながる日本語教育』 pp. 87-105. くろしお出版

トムソン木下千尋 (2016) 「つながりがもたらすもの」 トムソン木下千尋 (編) 『人とつながり、世界とつながる日本語教育』 pp. 212-229. くろしお出版



☆編集後記☆

本号は、諸般の事情より、フォントが異なる NL となりましたことをお詫び申し上げます。

Megumi Kawate-Mierzejewska

JSL SIG Membership Information

日本語教育研究部会

日本語教育研究部会（JSL SIG）は、第二言語・外国語としての日本語指導・日本語学習・日本語教育研究の向上を目指し、指導・学習・研究のための資料や情報を提供しています。更に、専門家の育成の為に外国語教育における日本語教授法や言語学（心理・社会言語学なども含む）の研究推進にも力をいれています。日本語の指導者・学習者・研究者の積極的なご参加を歓迎致します。

▶ 日本語教育研究部会メンバー募集

本部会 JSL SIG は現在 45 名ほどの会員がおりますが、会員数を増やし更にネットワークを広げるべく、常時会員を募集しています。皆様の同僚やお知り合いなどにも、是非ともご周知下さい。

▶ 会員のメリット：

1. 論文集『JALT 日本語教育論集』に投稿できる（2年に1回発行、査読あり）
2. 定期的にニュースレターが送られる
3. ニュースレターに論文や学会レポート、日本語の教え方・学び方、その他会員の学会発表・研究テーマ・教授経験など、紹介したい記事を投稿できる
4. JALT や PanSIG の JSL SIG フォーラムに、発表者として参加できる（フォーラムの企画に興味のある方は jsl@jalt.org まで）
5. 入会方法は、JALT ホームページをご覧ください。 <http://jalt.org/main/membership>

Urban Edge Bldg 5F, 1-37-9 Taito,
Taito-ku, Tokyo, 110-0016, JAPAN
Tel: 03-3837-1630 Fax: 03-3837-1631
<http://jalt.org/>

JSL SIG Mission Statement

The mission of the Japanese as a Second Language Special Interest Group (JSL SIG) of the Japan Association for Language Teaching (JALT) is to serve as a resource for promoting JSL/JFL teaching, learning and research. We welcome JSL/ JFL teachers, learners, and researchers to join and take an active role in our SIG.

JSL SIG Membership

The JSL SIG currently has around 45 members. To expand our network and share JSL information more dynamically, invite your colleagues and friends to join!

Benefits of being a member : Be able to

1. Contribute a paper to the peer-reviewed *JALT Journal of Japanese Language Education*, which is published bi-annually.
2. Receive SIG newsletters a few times a year.
3. Contribute articles, conference reports, teaching ideas, students' essays, call for papers, etc. to the SIG newsletter.
4. Participate the JSL forums as a presenter at the PanSIG and/or the JALT annual conference (contact jsl@jalt.org)
5. Please refer to the JALT membership categories and fees on the JALT homepage. <http://jalt.org/main/membership>

